

「世界を視野に地域から始めよう」

宮崎大学研究戦略・推進体制

研究目標：宮崎大学は、現代社会が直面する医学、農学、工学、人文社会科学等の分野の諸問題に取り組み、独創的、萌芽的、学際的あるいは融合的研究によって得られた成果を基盤に、人類・社会の持続的発展に寄与する。

研究戦略：上記の研究目標を達成するために、生命科学を基盤とし、環境・食・エネルギーを加えた4つを本学の重点研究分野とし、学部、学科および各センターがそれぞれの枠を超えて連携融合して研究する。また、それぞれの研究分野に関わる人的充実を図り、全学的な組織で推進する。

平成26年7月

宮崎大学における研究推進体制

学長

学長戦略企画室

研究・企画担当理事

研究戦略タスクフォース

研究・企画担当理事が、研究戦略に関わる領域の研究者を宮崎大学における学術研究活動の研究者・コーディネーターとして部局にとらわれずに選任し、重点分野を中心とした戦略的研究プロジェクトの企画、外部資金獲得、研究基盤の整備、研究成果の社会還元等を推進する

フロンティア科学実験総合センター
産業動物防疫リサーチセンター
産学・地域連携センター
国際連携センター
テニユアトラック推進機構
清花アテナ男女共同参画推進室
キャリアパス支援室

連携

支援

研究国際部

- 研究推進課 : 外部資金(研究費等)に関する情報収集・申請等
- 産学・地域連携課 : 地域・企業等との共同研究に関する情報収集・支援
- 国際連携課 : 海外との共同研究等に関する情報収集・支援

宮崎大学における研究戦略(生命・環境・食・エネルギー)

生命現象を遺伝子や細胞レベルでのミクロな視点から、個体や集団レベルでのマクロな視点まで幅広く捉え、その基礎研究成果をトランスレーショナルリサーチや医学・工学・農学が連携した応用融合研究(福祉機器や生体材料等の開発等)へ発展させ、その成果を人類の生存や社会の発展へ還元する。

基盤・応用 生命科学

地域に優位性のある農水畜産物の生産から加工、流通、販売に至るプロセスを強化・拡大するための基礎・応用研究や食品の機能性や安全性に関わる研究、あるいは産業動物の国際的防疫に関する研究を通して、地域産業の活性化あるいは人類の食糧資源の持続的確保に貢献する。

食の科学

自然環境保全

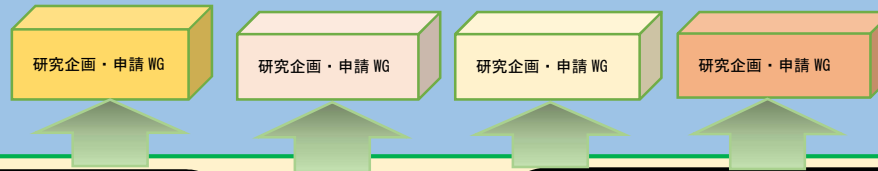
地球環境に関する幅広い専門領域を連結し、生物種や遺伝子それぞれのレベルでの生物多様性保全、海洋、森林、里地などでの生態系保全の研究、自然災害に対する防災・減災、水資源浄化やリサイクルなど資源循環型社会を実現するための研究を通して、持続的な自然環境の保全に貢献する。

再生可能エネルギー

太陽エネルギーやバイオマスなどの再生可能エネルギーの変換・流通、蓄電・蓄熱、省エネルギー、および革新的なエネルギー高度利用など、再生可能エネルギーの普及を図る研究開発を通して、持続可能な低炭素社会の実現に貢献する。

研究戦略タスクフォースの概念

研究・企画担当理事が、各学部の研究ユニットリーダーと連携の上、本学の研究戦略に基づく全学的な研究プロジェクトの企画、大型外部資金獲得等を目的として、「研究企画・申請WG（仮称）」（各ユニットから部局横断的に研究者を選出）を弾力的に設置する。



研究・企画担当理事



連携

ユニットリーダー会議

各ユニットリーダーは

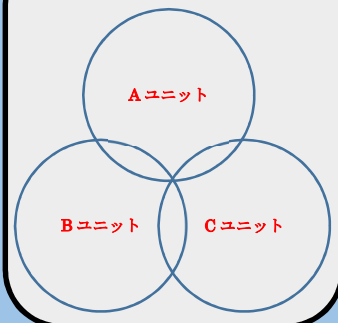
- ・各学部等の特色ある研究を推進
- ・研究ユニットを統括し、研究・企画担当理事への情報提供
- ・研究・企画担当理事の要請に応じて随時「ユニットリーダー会議」開催

ユニットリーダー

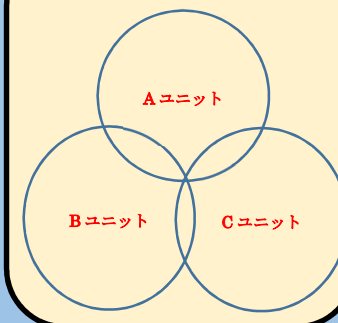
研究ユニット

各学部・研究科等は、特色ある研究を推進するため、独自の研究ユニット設置し、ユニットリーダーを選出

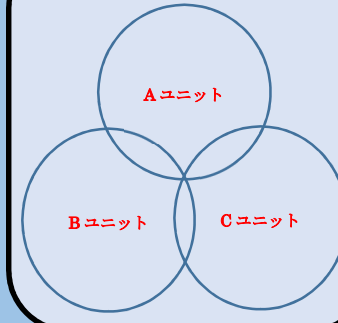
A 学部



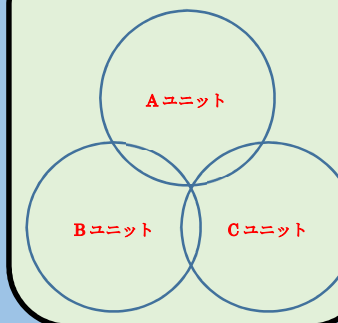
B 学部



C 学部



D 研究科



E 研究科

